

2015年 5月 13日

## 2014年度採択 研究推進プログラム（科研費連動型）研究成果報告書

採択者	所属機関・職名：経営学部・教授 氏名：八重樫 文
研究課題	デザイン・ドリブン・イノベーションにおけるデザイン・ディスコースの実証的研究

**I. 研究計画の概要**

平成 26 年度科学研究費助成事業－科研費－申請時の研究計画について、概要を記入してください。

本研究は、イノベーションにおいてデザインが鍵となることを、デザイン・ディスコース（デザインに関わる参加者で構成されるネットワーク）の実態分析から実証的に明らかにするものである。産・官・学の多様な組織が参加し EV（電気自動車）の社会的普及について協議する会議や、そこから発展する事業におけるさまざまな参加者間の意思伝達や実践活動を、参与観察やインタビューによって調査・分析し、ケーススタディの作成を行うことで、日本におけるデザイン・ドリブン・イノベーション（デザインが主導するイノベーション）のモデル構築を行う。

デザイン・ドリブン・イノベーションに関する先行研究では、デザイン・ディスコースのなかでの重要な役割は「技術の仲介者」ではなく「知識の仲介者」であり、製品の意味の将来像を決める議論への決定的なアクセスポイントと位置づけられているが、デザイン・ディスコースのどのような実態によってそれが定義されているのかは明らかではない。また、実際に参加者間がどのようなやりとりを行っていたかについても明確に述べられていない。

そこで、本研究では本研究代表者がコーディネータを務める「関西 EV イノベーション・ネットワーク会議」を対象事例に、参加者間の意思伝達や実践活動（デザイン・ディスコース）を参与観察手法やインタビューにて調査し、以下の 2 点を明らかにすることで、日本におけるデザイン・ドリブン・イノベーションのモデル構築を行う。

1. デザイン・ディスコースの多様な参加者がどのような意思伝達・叙述・実践活動を行っているのか。
2. デザイン・ディスコースのどのような実態がデザイン・ドリブン・イノベーションを導くのか。

**II. 研究成果の概要**

研究成果について、概要を記入してください。

イノベーションにおいてデザインが鍵となることを、デザイン・ディスコース（デザインに関わる参加者で構成されるネットワーク）の実態分析から明らかにするために、産・官・学の多様な組織が参加し EV（電気自動車）の社会的普及について協議する会議（本研究代表者が主催）や、そこから発展する事業におけるさまざまな参加者間の意思伝達や実践活動を、参与観察やインタビューによって調査・分析した。

この調査において、デザイナーは、デザイン・ディスコースの動態をよく把握・理解したうえで、適切な情報を選択・解釈し、イノベーションを生み出す可能性がある組織（企業）へ翻訳し伝達する役割を果たしていることが観察された。そこで、デザイナーが従来注目されてきたような造形表現力だけではなく、このようなデザイン・ディスコースでの情報選択・解釈・翻訳能力に長けており、イノベーションを促進するために重要な役割を果たす可能性が示唆される。この能力をよくマネジメントできれば、企業のデザイン・ドリブン・イノベーション戦略に有用なものとする。

しかし、デザイナーがこの能力をどこでどのように身につけたのか、またはデザイナーという役割や日常業務自体がこのような能力を醸成しているのか明らかでなく、イノベーション促進のためにデザインを活用するためにはこの課題を明らかにする必要性が示された。